

分野	重点目標	評価項目	達成・取り組み状況の評価	自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策	学校関係者評価及び意見	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
教育目標	(1)学校・学年・学級経営の充実	・各教科で工夫した授業を創造し、学習意欲の高まりがみられるか。また、校内研修により情報活用能力が身に付いている。	・誰にとっても分かりやすいユニバーサルデザインの授業を心がけた。また校内研究の領域を「情報」とし、子供たちの情報活用能力や表現力の向上につながった。	・若年層研修の充実を図る。また、「わかる授業」の創造に向け授業の質的な向上を全職員で目指していく。	・月単位で重点項目をたて、取り組んではどうか	・進んで考え、表現で
	(2)学習指導の充実			・創造に向け授業の質的な向上を全職員で目指していく。	・地域との関連で運動会に敬老会に案内を出しても超高齢化になっていて難しい。	・「わかる授業」の実践や確かな学力の定着を目指した授業を引き続き行っていく。
	(3)美しい教育環境の整備・充実			・学校生活全体を通し、思いやりの心の育成に向け、兄弟学級交流や縦割り清掃などを継続し、他者との関わりの機会を多くもてるようにしていく。	団体のくくりがあるので、長寿会(敬老会)は難しい。	・小規模校であるアットホームな雰囲気を大切に、児童同士や児童と教職員との関わりを通して思いやりの心を育てていく。
(4)生徒指導、特別支援教育の充実・推進	・特別な教科道徳の時間や子供主体の活動を多く創出し、児童一人一人の思いやりの心が育っている。	・道徳の時間では、担任同士が交換授業を行うなど、担任以外の職員が授業を行うことで児童を思いを多角的に見取ることができた。	・休み時間の外遊びや正課時体育の時間を充実させることで、自ら進んで運動に親しむ児童を育成する。	・子供たちの計画をもとにやっている。トップダウンでなく、非常によい。	・地域、学校、家庭とが連携して子供を育てていく。	
(5)心の健康と体力の増進、安全指導の強化		・児童主体の挨拶運動、廊下歩行運動を行うことで学校生活をより良いものにしようとする思いが培われた。	・学校と家庭・地域がより連携し、児童の生活習慣を徹底して身に付けられるようにする。	・授業以外の外遊びの工夫が見られた。継続してほしい。外遊びを生活化していくことが大切。公園での遊び方も変わってきている。地域学校家庭の3位一体で啓発方法を生み出したい。		
(6)開かれた学校の推進	・健康に留意し、休み時間等、外遊びの時間が確保され安全に留意しながら体力づくりに取り組んでいる。	・6年作製の「外遊びすごろく」を各学級に配付するなど、外遊びを推奨する活動を行った。外遊びや校庭の遊具遊びをする機会が増え、体を動かす時間が増えた。				
		・市の各種体育大会に向け、朝の練習に取り組んだ。大会参加者だけでなく、体力向上のために体を動かしたい子供たちも多く参加していた。				

分野	重点目標	評価項目	達成・取り組み状況の評価	自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策	学校関係者評価及び意見	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
教育課程・学習指導	<p>・豊かな学びで一人一人の夢を育てる教育課程を編成し、推進していく。また、確かな学力を育成するために、授業改善、指導過程の工夫を行う。</p>	<p>・各教科の学習や様々な体験学習を通して豊かな心と学習意欲が高まっている。</p>	<p>・体験学習や外部講師、企業や農家、歯医者や助産師による出前授業の活用を推進することによって、児童の興味・関心を高め、体験学習の充実を図った。学習内容をより効果的に身につける工夫や努力をすることができた。</p>	<p>・葛南スタイルの授業を進め主体的に学習に取り組める「わかる授業」の実践に努めていく。 「教える授業」から「学ぶ授業」へ (1)見出す (2)自分で取り組む (3)広げ深める (4)まとめあげる ・今後も個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用し、より効果的な個々に応じた指導を模索する。 ・今年度、関係機関(総合教育センター特別支援班、特別支援学校巡回指導、訪問支援員)に来校・児童観察を依頼し、助言をいただいた。今後も、児童の実態把握、支援の手立てについて協議を図り対応していく。</p>	<p>・体験学習の充実が市場小のよさの一つである。 知識、経験の引き出しを増やせる貴重な授業となっている。 ・教育方針の転換をうけ、個に応じた指導がなされている。 ・指導者が少ない中での方法を模索していく必要がある。</p>	<p>・体験活動や芸術・文化に触れる活動を教科の学習と関連付けて年間計画に位置付けて実施し、学習の充実を図る。 ・船橋の教育2020にある「ふるさと船橋」・地域学習を大切に扱っていく。 ・個別の指導計画や個別の教育支援計画をより効果的に活用していく。個に応じた指導を行うことができるように教職員での共通理解を図る場を十分に活用していく。</p>
		<p>・個に応じたきめ細かな指導を徹底し、思考力の育成が図られている。</p>	<p>・学習過程を明確にするために資料を作成し、見通しをもって学習に取り組むようにした。 ・特別な支援が必要な児童には、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、保護者と具体的な指導、支援方法を共有して対応することができた。</p>			
		<p>・「教育課程特例に基づく小学校1、2年生の英語教育」により、どの学年においても英語学習への興味・関心が高まっている。</p>	<p>・担任や教科担任とALTとがチームティーチングによる学習活動を通して、楽しく英語に触れることができ、外国語の音声やリズムに慣れ親しむことができた。 ・保護者による学校評価では「子供は英語を楽しみにしている」との肯定的評価は58.5%にとどまり、今後の授業について改善を図りたい。</p>			
組織運営	<p>・児童が充実した学校生活を送れるように、学校運営、学級経営に関して明確かつ厳正な運営、責任体制を確立する。</p>	<p>・校務分掌を整理し、教職員が自分の力を発揮できる校内体制が確立している。</p>	<p>・教員の減少および年度当初からの講師未配置に伴い、一部の職員の校務分掌に偏りが生じた。業務改善の視点からも、より均衡が図れるような分掌割り振りが課題である。</p>	<p>・教職員が行った自己評価に基づき教職員の意見を反映させながら、学校運営を推進していく。 ・校務分掌については、若年層にも積極的な割り振りを行う。また、分掌の体制の見直しを行い、職員数に合った校務分掌としていきたい。 ・個人情報情報を校外へ持ち出すときには管理職に確認することを徹底し、情報管理への意識が図られた。今後、情報セキュリティ等に関する意識をより高めていく。</p>	<p>・少ない職員で分掌を振り分けるのは大変。割愛できるのは、思い切った変革が必要である。 ・負担増へのストレスによる不祥事が増えている。校務分掌への配慮をしてほしい。</p>	<p>・学校の規模に合わせた体制に変えていき、校務分掌は偏りのないように、職員の得意な分野や年齢構成を鑑みながら十分配慮していく。</p>
		<p>・教職員は、通知文を理解し服務を厳正に行っているか。不祥事根絶に向け学校全体で取り組んでいる。</p>	<p>・職員会議、打ち合わせなどで都度、事例を示し、不祥事根絶についての意識向上を図ることができた。 ・不祥事根絶研修では、市場小からは絶対に不祥事を出さないという思いを全職員で確認し合い、互いに声を掛け合いながら職務に当たっていきこうとする組織風土が醸成された。</p>			
		<p>・個人情報の管理を徹底して行っている。</p>	<p>・情報管理「4つの確認」「4つの約束」を周知し施錠して保管するなど情報管理を徹底した。また、個人情報持ち出す場合は持ち出し簿への記載を徹底した。職員による生徒のメールアドレス等の収集記録簿により、個人情報の管理を徹底した。</p>			

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解を深め、校内の生徒指導体制を確立する。 ・基本的な生活習慣を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動等への生徒指導体制が整備され機能している。教育相談体制が整備され、機能している。 ・いじめを早期に発見し、早期対応が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度前半の生徒指導部会の共通理解に重点を置いた。後半になり個別に対応、支援の必要性が高まったため、ケース会議を行い、より実践的な組織対応に当たった。 ・問題行動やいじめの早期発見とその後の経過観察を徹底した。 ・学校生活アンケートを定期的に行い、担任が児童から聴き取りを行う中で、早期対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関して組織として対応できた。今後も生徒指導担当を中心に組織として取り組み、問題の早期解決に努めていく。 ・家庭や地域との連携をさらに強化するため、学校からの情報の提供をより積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見、早期対応ができていないところの発見をどうしていくか。ささいなところが難しい。アンケートなどで探ろうとしているが、友達、保護者を通して聞き出すことも必要である。 ・SNSでの誹謗中傷が低年齢化している。携帯を持っている子どもが多い。校外での生活の仕方も気を付けた。 ・来年児相ができる。関係機関を巻き込んで、連携して対応してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も定期的な生活アンケートや児童主体のいじめを考える機会をもつことでいじめ対策の強化を行い、取り組みを積極的に地域、保護者へ伝えていく。 ・家庭や地域と一緒に問題解決を図れるようにしていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちは学校のきまりを理解し、守っている。 ・家庭、地域、関係機関との連携が図られてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「市場小学校 生活のきまり ※とくに気をつけてほしい10の約束」を掲示し、よりきまりを意識させるようにした。 ・自転車の乗り方等に課題が残った。学年・学級ごとに都度指導しているが、家庭・地域との連携を強化していく。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・校内教育支援センター「さざんかルーム」を開設に伴い、教室環境整備や担当職員との連携など、運営体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任とスクールアシスタントが連携し、さざんかルームを利用したい児童にとって、安心して過ごせる場とすることができた。 ・「さざんかをつかうときのやくそく」を作成し、利用する児童、保護者とも利用の仕方の共通理解を図った。 			
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画に基づいた安全管理と危機管理体制の確立および児童の危機対応能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検が確実に行われ、安全な学校環境が整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月安全点検日を設け、全職員で協力し校舎内外の安全点検ができた。 ・教育委員会の関係部署と連携を取りながら施設修繕を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当者による毎月の点検、安全主任による報告内容の確認が適切に行われたので継続していく。 ・危機管理マニュアルについて年度当初に全職員で確認し改定も行う。 ・児童の安全について保護者や地域に啓発し、安全確保に協力を得られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフが心配している。いつ災害が起きるかわからない。計画していても即対応は難しい。 ・通学路の危険箇所(特に下校時)や不審者対応のため、今後も複数人で登下校するように学校から啓発してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な避難訓練(地震、津波、不審者等)を今後も継続していく。 ・児童の安全について課題や家庭・地域へお願いしたいことは、学校だより等を利用して、保護者や地域に啓発し、安全確保に協力を得られるようにしていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、不測の事態を想定した適切な指導や避難訓練を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に位置付けた避難訓練を行うことができた。不測の事態への危機意識が高められた。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルが活用され児童は危機対応能力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルをまとめ、校舎内に掲示している。大切な「おはしも」「いかのおすし」などの約束事を児童に定着させるよう努めた。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・安全に関して家庭、地域、関係機関との連携を図り、適切に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域がスクールガードとして登下校の安全指導を行ってくれている。校長が朝の登校指導をしている。 			

保健管理	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画に基づいて児童の健康管理と心のケアの体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画に基づいて、児童の健康管理が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画に基づいて、健康観察をもとに子供たちの健康管理を行った。ICTを活用して、各学級ごとの欠席状況をデータ管理するようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任と養護教諭とで健康管理について学年に応じた指導を年間計画に位置づけ実施していく。 アレルギー対応について、連絡票の活用により一層の統一と危機管理意識の向上を図る。夏のアレルギー対応研修を引き続き行っていく。 児童が担任だけでなく、他の教職員にも悩み事を話せるような体制づくりに努める。 スクールカウンセラーの活用を活発にし、保護者のみならず児童にとっても相談しやすい環境作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育が素晴らしい。 調理過程の映像配信や千産地消の取り組みは、引き続きお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭を中心として、学校全体で食育の推進をより進めていく。次年度も個別的な相談指導に取り組んでいく。 養護教諭による保健指導を年間計画を作成し、学年に応じて実施していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 児童の病気やけがなど適切な処置を行い、家庭へ速やかに連絡している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が病気やけがをした際に速やかに家庭へ連絡し、病気、けがの状況を伝えることができた。特に首から上のけがは必ず管理職への報告を徹底した。 			
		<ul style="list-style-type: none"> 食育に関する指導を計画的に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭が積極的に複数の学年、学級で授業を行い、食育を推進することができた。 給食配膳時に季節に応じた献立や食材、調理方法などをまとめたスライドや調理動画を視聴することで、子供たちの食への関心を高めることができた。 			
		<ul style="list-style-type: none"> 児童の悩みを把握し、心のケアを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童理解に努め、変化を見逃さず担任が声かけをすることができた。心配な児童には管理職が進んで対応し、組織的な対応となった。 スクールカウンセラーが児童の様子から担任へコンサルテーションを行うことで児童理解が深まった。 			
研修	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の資質、指導力の向上をめざし、体系的に研究、研修を進める。 教育課程の工夫改善を図り、教職員が教材研究するための時間の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修は学校の教育課題に即したものであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用等学校の教育課題に沿った研修が行われ、有意義であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究については、「主体的・対話的で深い学びを生み出す情報活用教育の推進」を研究主題に研修を行ってきた。次年度は、より全職員が見通しをもてるような研究推進となるよう検討していく。また、AIの効果的な活用についても研修、研鑽を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報化が進んでいるがAIは扱い次第である。間違った情報を判断できる教育は、人が教えていく。個性がなくなってしまうか心配である。個を大切にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちの実態を捉え、能力や技量を高めるために、今後も研修・研究を進めていく。 AIの業務への取り入れや授業での扱いについては、外部講師を招聘して研修を行う等、教職員の資質向上に努めていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 校内研究、教材研究を通して、教師の授業力を高め授業の改善が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究の領域を「情報」とし、全教科で教科横断的に「主体的に学ぶ」、「自分の考えをもつことができる」ことに重点を置いて追求し、教員が効果的な活用場面や方法を研究、実践することで、児童の情報活用能力の向上がみられた。 			

保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域の期待や要望に応える連携体制をつくる。 地域中学校区を中心とした学校間の連携を強化していく。 学校運営協議会委員や関係機関との連携体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域への情報提供を適切に行っている。 地域、PTAとの連携は図られている。 保護者や地域の方から寄せられた要望に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、学校メールなどを活用して学校の様子を伝えるよう努めた。 本校おやじの会主催イベントには多くの子どもたちや保護者が参加している。また、地域イベントについても学校メールを利用して周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き学校が目指していることや教育活動を保護者や地域の方に説明したり、学校の情報を発信したりしていく。 市民の会や地域の行事により地域や保護者との連携を深める機会が得られるので、意見をいただき学校運営に反映していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童数の急増を見据え、新たな地域関係者とのつながりにむけ、準備を進めてほしい。 発表、発信をする場を地域に広げていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページや学校だよりにより、児童の様子や学校の姿勢を評価していただけたので、来年度も積極的に情報発信していく。 市場町自治会家庭への学校だよりを継続していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校から学校運営協議会委員や関係機関への情報提供を適切に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子供たちの健全な育成のために、学校間、地域、家庭との連携が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校区の小中学校との連携した取り組みを行うことができ、学校行事の持ち方の共通理解を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを市場町自治会家庭への回覧を行った。 行事(運動会、授業参観等)への招待する機会を増やした。 学校運営協議会を年3回開催し、学校運営に助言をいただいた。 		
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員による特別な教育支援を必要とする子供への理解と指導、支援を特別支援コーディネーターを核としての協力体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の特別な教育支援を必要とする子供への支援体制が整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーター、生徒指導主任と管理職を中心に支援体制を計画的に組んだ。支援の必要な児童の個別のファイル作成を継続している。それにより、引継ぎ等を円滑に行うことができた。 自閉症情緒障害特別支援学級「けやき学級」について、校内で連携を図り、支援級と交流学級との学習を通して、実態に合わせた支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援部会と生徒指導部会を合わせて行った。 個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成して、保護者との連携をより一層図っていく。 また、計画の策定だけでなく、その活用について職員の理解を深め、手順を確認することが必要である。特別支援教育に関する職員の研修を計画的に進めていく。 関係機関(総合教育センター特別支援班、特別支援学校巡回指導、訪問支援員)やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと担任との連携をより一層深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校のできる範囲の中でしっかり取り組んでいる。 特別支援学級の指導に関し、特別な免許は必要ではないが、指導できる教員を養成し、今後は全員が携われるようにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な子ども全てに渡って、個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成し、保護者と定期的に連絡を取りながら、教育支援を行っていく。 引き続き関係機関との連携を一層深めていく。 校内の連携を図り、支援級と交流学級との学習の充実に努める。
		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育について必要な子供の個別の指導計画が作成され、実践されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な子供について、保護者の理解を得て、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、児童支援にあたることができた。 			
		<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、医療・福祉などの関係機関との連携を適切に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関による経過観察を行っている児童について、必要な対応について職員の共通理解を図ることができた。 医療面からの助言を要する児童については、保護者の理解を得て、学校職員(担任やスクールカウンセラー、管理職)が直接連絡を取り合い、児童の学校生活への支援につなげることができた。 			

施設設備・環境	・施設設備の有効活用と教育環境の整備を行う。	・学習環境や生活環境を向上させるための整備を計画的に行っている。	・老朽化した施設・設備の修繕など、昨年度より環境を向上させることができた。	・施設設備については、日々の安全点検に努め事故を未然に防いでいく。 ・修繕可能なものは早急に対応する。学校でできないものについては、引き続き市教委へ要望し、修理、改善を依頼する。また、校舎老朽化に伴う改善箇所については、短期的、長期的なものに分類し、計画的に改善していく。	・樹木の倒木に気を付けてほしい。 ・和式トイレの利用度は少ない。洋式トイレに変える要請を出した方がよいのではないかな。	・施設設備については、日々の安全点検に努める。学校で修繕できないものについては、市教委へ要望し、修理、改善を依頼する。
	・施設設備の使用は、留意事項を心得て有効に使用している。	・空教室が多くあるが、室内を整備し、作品展示室や更衣室として、有効に活用することができた。				
	・施設設備の点検を適切に行い、改善への努力を行っている。	・毎月の安全点検を確実に実施し、修繕が必要な箇所については、優先順位をつけて対応した。				